

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092000019		
法人名	医療法人 柳川滋恵会		
事業所名	グループホーム春		
所在地	福岡県柳川市西浜武1085-1		
自己評価作成日	平成23年2月16日	評価結果確定日	平成23年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kai_gosi_p/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成23年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クレークに囲まれた田園地帯の、柳川らしい風情の静かな環境にあります。利用者や職員は共に支え合いゆったりと過ごしています。隣の敷地で野菜作りをしているので、時々食卓に上り皆で味わい話題も広がります。食べることは利用者が一番の楽しみです。食事やおやつ作りのお手伝いが出来て職員も嬉しい限りです。建物内部は大きなテラスや明るい色調で居室は障子や畳を配し、手すりを取り付けバリアフリーの安全な環境のもと、いつまでも本人らしく自立した生活が出来るように支援しています。地域や法人内の行事に参加し楽しみも年々増え、仲良く交流されています。職員は知識や技術習得のほかに、利用者と一緒に生活することを実際の学びの場として感謝すると共に、サービスの質の向上を図り支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日唱和している理念や接遇心得の具現化を目標にしながら、日々のケアに取り組んでいる。接遇研修の担当者を決め、毎月の定例会や機会ある毎に学習し、入居者を目上の方として敬う言葉づかいに配慮し、入居者に応じた方言や声のトーンで話しかけている。隣接する協力医療機関と連携しながら、夜間不穏・外出傾向のある入居者が1日のリズムがとれるように、担当者会議で職員の気づきや家族の意見で介護計画を見直している。毎月の定例会では、入居者と1日1回3分間は必ず向き合って話しをすることが提案され、理念にある「苦しい時は助け合い、悲しい時は慰め合いながら、お互いの気持ちを大切に」するケアの提供がさらに期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 菜の花／グループホーム春

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	第二の家としてお互いの気持ちを大切に、共に支え合い、その人らしく暮らし続ける生活の実現の理念を作り、一日2回唱和して全職員で共有して実践につなげている。	唱和している理念や曜日毎の接遇心得の具現化を目標にしながら、日々のケアに取り組んでいる。接遇の向上がケアの向上であると、言葉遣いに留意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に地域の一員として交流する機会は少ないが、廃品回収の協力や、運動会の見学は毎年行っている。利用者には地域のニュースを伝え話題にして地域の呼び起こしにつとめている。	近隣で開催される校区公民館の運動会に招かれ、本部席横で観覧している。定期的なエレクトーン演奏のボランティアの来所があったり、保育園児が七夕に来所したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年間行事は法人内で積み上げてきた総合的な力です。事業所は認知症の人の理解や支援方法を見て頂く機会と捉え、家族や地域の人に向け法人上げて発信しているところである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実践について介護の大変さを理解され、貴重な意見提供があり有難いと感じている。サービス向上に取り組んでいる。	適切なメンバーで2ヶ月毎に開催され、ホーム行事や入居者の状況等を報告し、議事録を整備している。参加した家族の要望で施設系サービスの情報を提供したり、徘徊等を想定したネットワークづくりのため、入居者の顔写真の活用について説明している。	参加した地域や家族代表の意見を活かすためにも、個人情報保護や守秘義務等を明記した運営推進会議実施要領の整備をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時は連絡を取り指導を仰ぎ協力関係を築いている。	入居者の介護保険給付更新の折に、市担当者や情報を交換している。地域包括支援センターから入居状況の問い合わせがあることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会を重ね全職員への周知徹底に努めているが、特にスピーチロックについては日常的に正しい理解と実践に努めている。玄関は日勤帯は施錠はしていない。	日頃から、身体拘束について学習している。現在、夜間不穏や外出傾向のある入居者もあり、その場にに応じた対応や見守り、かかりつけ医に随時状況を報告しながら眠剤の服用などを支援している。同敷地内の施設職員から、入居者の動向について連絡を受けたこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	児童虐待、高齢者虐待が社会問題となり、虐待防止の徹底を図るため、全職員は年間学習計画に取り組み、さらに日常的に見逃されることがないように、協働して防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内の学習年間計画に於いて制度の理解を深めているところである。実際の活用には至っていないが、今後関係機関との協働に取り組みたい。	成年後見制度等について家族の会で説明したり、パンフレットを配布した家族もあるが、活用には至っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要事項説明書を説明し、理解納得して頂きその上で不安や疑問点を尋ね、安心されるように分かり易く説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族は日頃から気軽に相談されている。意見や要望は誠実に対応して、検討を重ね運営に反映しサービス向上を図っている。	訪問する家族も多く、その折に入居者の状況を説明し、意見を伺っている。また、昼食を準備して家族会を開催している。参加家族も多いが、特段の意見はなく、ホームへの謝辞が多い。運営推進会議には交代で家族2名に参加してもらい、意見を頂くよう努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会があり、毎日カンファレンスがあり又その都度柔軟に対応して聞いている。利用者サービスに関することや、業務改善案等速やかに対応したり、検討したり運営に反映させている。	月1回法人全体会議が開催され、理事の出席があり、職員の意見を反映できる体制がある。定例会では、入居者と1日1回3分間は必ず向き合って話しをすることが提案されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎月の全体会議に於いて、職員の日頃の努力や実績に感謝され、又職員の意見等を把握され、働き安い職場環境や条件整備に努力されている。職員も感謝して資格取得や仕事に励むことが出来る。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	本人の仕事に対する熱意と人柄を重視され、平等な視点で採用されている。毎日元気で前向きに仕事を行い、継続して自分らしく社会参加の権利が保証されるように配慮している。	ハローワークを通じて採用され、70%以上が常勤職員で、50歳代の職員が多い。休憩室が整備され、残業がほとんどなく、長期のリフレッシュ休暇を取ったりしている。職員の希望や段階に応じた研修参加や介護福祉士の資格取得を支援している。参加した認知症実務者研修の成果が発揮されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	折に触れ全職員を対象に、人権尊重の対話を図っている。学習年間計画に於いて、虐待、拘束は多く取り組み繰り返しの勉強が必要と考える。	高齢者虐待防止や身体拘束に関する研修会を実施している。日々の接遇においても利用者を尊重することを第一に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの実際と力量に合わせ法人内外の研修や、新人研修を一人ずつ順に受講されている。日常的に働きながらトレーニングしていくことを勧めている。継続していきたい。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会の勉強会に参加するも、相互の訪問活動は行っていない。サービスの質の向上と言う同じ目的意識があり、情報を持ち寄っての勉強は有意義である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に本人に必ず面会し気持ちや意向の確認をしている。安心されるように段階的に関係作りをしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と立場が違う家族の思いは十分に受け止め、相互に相談しながら共に利用者を支えていく、信頼関係作りにつとめている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期は環境変化の対応に配慮し、本人家族が安心出来るように努めている。1週間もすれば落ち着かれるが、その後は適切なサービスについて家族と話し合っている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム理念にも示す通り職員は一緒に過ごすことで、理解を深め相互に学びの場とし共に支え合う関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場を理解して、共に本人を支え合う為の信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や関係者の面会も多く地域社会の継続性が見える。馴染みの場への外出等は家族に声かけて協力をしている。	入居前に生活していた家を見に行ったり、入居者と家に上がり仏壇に参るなど、家の風通しを行っている。個室のため気安く訪問しやすいので、近隣の友達が来所する入居者もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに話かける場面が少ないので、利用者同士が関わり合い支え合えるように、職員は孤立を避け目配り気配りして、会話の架け橋を担って配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じた相談支援に努めている。法人内に入所のケースも少なく経過フォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に毎日の対応を丁寧に行うことで、本人が思う暮らし方の把握に努めている。困難な場合はカンファレンスを随時行い本人本意に検討、実践、モニタリングを行っている。	心身の状況、生活歴や職歴を利用者や家族から聞き取り、記録を整備している。職員を担当制にして、日頃の関わりから思いの把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日一緒に過ごしながら行動や話の中からこれまでの生活歴が見えたりする。本人が繰り返し強調されることは、暮らしの支援のヒントとなっている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に心身の健康管理を行ない早期発見早期治療、及び病気予防の支援に努めている。又本人の出来る力や分かる力の現状把握は記録して情報を共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリング、6ヶ月毎に介護計画を作成している。状態変化に合わせ見直しを行っている。いずれも家族に説明し、現状に即した介護計画を作成している。	夜間不穏・外出傾向にある入居者を1日のリズムがとれるように支援している。眠剤等の内服状況をかかりつけ医に相談しながら、担当者会議で職員の気づきや家族の意見を話し合い、介護計画を見直している。	把握した入居者の意向、できること、笑顔になれることの支援を長期目標に明記した介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や結果、気づきだけでなく、医療計画に至った根拠になる状態把握を、分かり易く記入し情報を共有してケアの実践や介護計画を見直しているが、記録の勉強中である。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態変化に応じ医療と連携して受診支援したり、ホーム内の看介護の治療体制で入院を回避しホーム生活を継続したり、入院の場合は早期退院の連携支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校児童、幼稚園児との交流、ボランティアのエレクトーン演奏、慰問見学等文化面の楽しみを支援したり、消防署の協力を得て防災訓練を実施、少しずつ地域資源との関わりが増えている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族は利用契約時に十分な説明を受けかかりつけ医を決定されている。個々の疾病に応じ家族へ相談されて専門医へ紹介あり適切な治療を受けたり、週1回の回診や夜間の対応についても家族は安心されている。	隣接する協力医療機関による毎週の訪問診療で健康の維持や早期治療を支援し、変化があれば随時報告し対応できる体制がある。専門医療機関受診は家族が同行している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員はホーム内の看護職員に、日頃と違う健康チェック値やケアで気づいた事を伝え早期発見早期治療に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は不安がないように、かかりつけ医や事業所から十分な説明を行い、本人・家族の相談に勤めている。入院中は安心されるようにお見舞いに行き顔を見せている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医は段階的に検査を行い結果をみながら家族への話し合いをされている。同時に事業者も方針を共有しながら、関係者と共に支援に取り組んでいる。	入居者の状態に応じて、隣接の施設入所や入院などを検討し、家族から信頼を得ている。日々の関わりのなかで入居者は思いを語ることもあるが、意向確認まで至っていない。入浴介助に職員1名で対応できない入居者を隣接する老健のリフト浴で対応したこともある。	ホームでの看取りを希望する家族もあることや既往症等が重篤化することも予測されるので、方針の整備をお願いしたい。また、入居者の思いを大切に検討していく勉強会の取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員の重要課題と捉え繰り返し学習している。知識と技術の習得及び実践力の段階であるが理解度に個人差がありレベル引き上げが当面の課題である		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回(昼と夜間想定)利用者参加のもとで避難訓練を実施している。法人内及び消防所への連絡体制を築いている。地域参加の災害対策が急務である。	防災設備は完備され、隣接する老健と合同で消防計画に沿った避難訓練を実施している。市の安全安心まちづくり体制による巡回や地域消防団も冬季は巡回している。管理者は防犯協会に加入している。	運営推進会議や家族会で訓練日時を案内し、地域の理解や協力をお願いしていただきたい。また、昨今の異常気象現象を考慮し、風水害の折には地域の緊急避難所としての検討もお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に入浴や排泄時の対応はプライバシーの確保に配慮している。毎日2回接遇心得を唱和して、高齢者への適切な対応の意識向上を日常的に行っている。慣れなれない言葉かけや態度に注意している。	接遇研修の担当者を決め、毎月の定例会や機会ある毎に学習している。入居者を目上の方として敬う言葉づかいに配慮し、入居者に応じた方言や声のトーンで話しかけている。	入浴・排泄支援で羞恥心を考慮した支援を実践するためにも、マニュアルの整備をお願いしたい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共に生活する顔なじみの信頼関係を築いていて思いや希望は容易にお話されるが困難な方は表情や行動を汲み取っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課の大きな柱はあるが、一人ひとりの本人希望のペースに合わせて支援しているので、それぞれの暮らしぶりがある。しかし大方の人は誘導しながら支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回訪問理美容を利用されている。女性の入居者が多く洋服に関心を持たれたり、髪の毛の乱れが気になったり、口紅をつけたり、本人のおしゃれ心は維持出来るように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに合わせ米飯だけでなくパン食も提供したり、多彩なメニューについては、大変喜ばれ、話題や楽しみも広がっている。お盆拭きを手伝いされるが、とにかく仕事が丁寧で利用者には感心させられることが多い。	お盆拭きをお願いしている入居者に「ありがとう」と、職員のお礼の声かけが日常化している。各ユニットとも入居者の心身の状況や相性で食卓を分け、職員が伴食しながら声かけや食事介助をしている。ゆっくりと自分のペースで食事をする入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による必要な栄養バランスを考えた食事を提供している。平均7～8、9割りは摂取されている。個々によっては水分摂取が少なく毎回苦労があるが、本人の趣向に合わせて声かけにもひと工夫して支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後声かけ誘導し、見守りして実施しているが、不十分な場合は介助を行い清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意便意が曖昧な方は排泄リズムを把握し、日中はトイレ誘導して失敗やパット内失禁を減らしトイレでの排泄自立の支援を行っている。	トイレと赤いテープで大きく掲示している。昼間はできるだけ、トイレの排泄に取り組んでいる。夜間は居室のポータブルトイレを使用したり、厚手の紙オムツの活用で途中で覚醒しないようにしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜や豆類を取り入れた献立の工夫や果物、寒天、小豆、芋類で手作りオヤツを提供、同時に水分の確保、日課の体操と盛りたくさんである。さらに個々に応じて内服コントロールして便秘予防している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週に3回気温が上昇する午後から入浴実施している。シャワー浴のみを希望される方、状態に合わせて陰部清拭更衣の方等、当日の状態に合わせて入浴支援している。入浴されると笑顔がみえている。	脱衣場に置かれたタンスの引き出しは、入居者名が記載され、更衣が自立している入居者もいる。脱衣を拒否する入居者には、声かけ等を工夫しながら支援している。柚子湯を楽しんだりしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの状態に合わせて短時間の休息を取り入れている。生活リズムを整え夜間の安眠につなげている。不眠が続く場合は医師に相談して対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的を理解することや、服用時の誤薬がないよう職員に徹底する為、各自が医療の申し送りノートを確認したり、新しい処方や臨時薬等はその都度看護より説明をされ服薬支援と症状の変化の確認に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の負担にならないように力に合わせて役割を声かけして、満足感や達成感を見守りしている。外出等の楽しみは家族も協力され気分転換になっている。オヤツ時はコーヒー、ココア、あめ湯、紅茶等楽しみが		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時期は日常的に散歩をしたりドライブを計画したり、例年戸外へ出る機会を多く持っている。本人の希望が実現できるように家族も協力されている。	法人敷地内の一角には水屋が設置され、ベンチに腰かけ外気浴をしたり、職員と畑づくりをしたりしている。車イス利用者も多いが、恒例の校区公民館の運動会に出かけている。又、全員で外食にはいけないが、希望に応じてケーキを食べに出かけたりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や持ち物に関しては多くの方が被害妄想があり、困難な部分がある。菜の花は金銭の預かりはない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由にされている。やり取りの希望があれば速やかに対応しているので安心されている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の集るホールや水周りは清潔保持に努めている。安全な移動のためシンプルに整備して空間を広く確保している。壁面は明るく飾っている。小まめな空調と遮光のためカーテンを利用している。台所からの臭いは生活感があるが、不快な音には極力注意をしている。	緩やかなスロープに続く玄関は長イスや下駄箱が設置されている。広い共用空間から、外の景観を見渡すことができ、丸いテーブルやイス、ソファが置かれている。一角にある一段高い和室は堀炬燵や茶ダンス、下げもん、お雛様、季節の花が生けられ、季節感に溢れている。広い廊下は、飾り棚も設置され、踊り場のソファで寛ぐ入居者もいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の思い思いの居場所に配慮して誘導していると、テレビが好きな方、自室でひとりラジオを聴くのが好きな方、円卓に集って歌やお話が始まったりと職員も楽しく、それぞれの過ごし方がみられている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の進行と共に居室内のものに対して被害妄想があり、又居室内での転倒予防の為に常に環境整備しシンプルにして安全に配慮しているが空調、リネンについても居心地を確認している。	居室入口には、大きく名前の記載した木製の立派な表札や飾りが掲示され、居室間違いを防いでいる。全居室が畳敷で、木製のベットや窓には障子が使用され、ぬくもりが感じられる。自宅からイスやタンスなどを持ち込んだり、訪問した家族と撮った写真等が掲示され、洗面台に椅子が置いてある居室もある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやベットや柱に手すりを取り付け、立ち上がりや靴の着脱時に声かけて活用し、できないところを介助し、本人の安全な自立に努めている。		